②　国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの資産見返物品受贈額戻入が二重になっていることによるもの
法人移行時に国から承継した資産見返物品受贈額のうち、対応する資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する資産見返物品受贈額戻入額の累計　654,915千円
③　国からの承継時において、附属病院の財産的基礎と考えられる未収附属病院収入のうち、国からの出資でなく譲与としたことによるもの　482,061千円
④　国からの承継時において、附属病院の財産的基礎と考えられる医薬品及び診療材料について、国からの出資でなく譲与としたことによるもの　396,038千円
1,744,857千円

⑺　土地の譲渡に伴う資本金の減少
①　譲渡した土地の帳簿価額及びその概要
帳簿価額　172,873千円
道路用地（千葉県松戸市）　1,694.84㎡
②　譲渡理由
道路用地及び交差点改良事業に必要となる道路用地について、国土交通省からの譲渡要望に応じるため
③　譲渡収入の額　193,193千円
④　独立行政法人国立大学財務・経営センターへの納付額の算定に当たり譲渡収入より控除した費用の額　8,188千円
⑤　独立行政法人国立大学財務・経営センターへの納付額　92,502千円
⑥　独立行政法人国立大学財務・経営センターへの納付が行われた年月日
平成27年３月31日
⑦　減資額　86,436千円

２．損益計算書関係
⑴　当期総損失に対する、法人移行時における固有の会計処理等に起因するもの
①　国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により、借入金見合いの資産の額が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの
附属病院に関する借入金の元金償還額　1,171,708千円
当該借入金により取得した資産の減価償却費　1,415,159千円
当期総損失に与える影響額（差引き）　△ 243,451千円

⑵　翌事業年度以降の特定日以降使用しないと決定した固定資産

用途	小仲台西宿舎	小仲台東宿舎	小仲台南宿舎	小仲台北宿舎	轟町宿舎	青葉町宿舎	亥鼻宿舎	松戸宿舎
種類	土地	土地	土地・建物・構築物	土地	土地・建物	土地・建物	建物	建物
場所	千葉市稲毛区	千葉市稲毛区	千葉市稲毛区	千葉市稲毛区	千葉市稲毛区	千葉市中央区	千葉市中央区	松戸市
帳簿価額	346,000千円	1,000,000千円	632,495千円	240,000千円	319,721千円	69,521千円	28,077千円	14,386千円
使用しなくなる日	平成27年４月	平成29年４月	平成29年４月	平成29年４月	平成29年４月	平成29年４月	平成29年４月	平成29年４月
使用しないという決定を行った経緯及び理由	注１	注１	注１	注１	注１	注１	注２	注２
使用しなくなる日における帳簿価額	346,000千円	1,000,000千円	629,007千円	240,000千円	313,907千円	69,223千円	20,055千円	8,328千円
回収可能サービス価額	正味売却価額	正味売却価額	正味売却価額	正味売却価額	正味売却価額	正味売却価額	備忘価額	備忘価額
減損額の見込額	―	―	―	―	―	―	―	―

注１）　職員宿舎の老朽化と耐震構造の不足のため、当該建物とその敷地について使用廃止する決定がなされたため
注２）　職員宿舎の老朽化と耐震構造の不足のため、当該建物について使用廃止する決定がなされたため

②　国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの資産見返物品受贈額戻入が二重になっていることによるもの
法人移行時に国から承継した資産見返物品受贈額のうち、対応する資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する資産見返物品受贈額戻入額　797千円
△ 242,654千円

３．キャッシュ・フロー計算書関係
⑴　資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳
現金及び預金　4,760,936千円
⑵　重要な非資金取引
①　現物寄附による資産の取得　460,003千円
②　現物寄附による少額資産等の取得　130,601千円
③　ファイナンス・リースによる資産の取得　691,786千円
④　資産除去債務の計上　34,250千円

４．国立大学法人等業務実施コスト計算書関係
国又は地方公共団体からの出向者に係る引当外退職給付増加見積額　13,033千円

５．固定資産の減損に関する注記
⑴　減損の兆候が認められた固定資産（減損を認識した場合を除く）

用途	電話加入権
種類	電話加入権
場所	千葉市稲毛区　外
帳簿価額	1,937,000円
認められた減損の兆候の概要	市場価格の下落
減損を認識するには至らなかった根拠	注１

注１）　回収可能サービス価額が帳簿価額を上回ることから、減損を認識しておりません。